

授業科目 西アジア文化研究特論	単位 2単位
授業担当者 山中由里子	授業期間 後期
授業の題目と概要 <p>「モノと語りの相関関係を考える」</p> <p>人は特定の物体に特別な意味や価値を付加するための言説を語りたがる。また、形のな い概念や感情を言語化すると同時に、モノとして具現することもある。モノは語りを生み 出し、語りがモノを生み出し、モノの移動とともに語りも伝わり、語りの文脈が廃れると ともにモノも消えゆく。</p> <p>このような物と言説の有機的な結びつきについて、物質文化研究とテキスト研究の双方 向から考察する。</p>	
授業の内容と計画 <p>人間が作り出した道具や装飾品、自然界に存在する動植物や鉱物にまつわる言説に、個 人・共同体の思い入れや美意識がどのように反映されているか、モノや人の移動とともに、 その語りがどのように変容するかといったことを、以下のテーマを軸に考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 語りの道具、祈りの道具 ・ モノの伝播と語りの伝播 ・ モノが持つ象徴性、隠喩としてのモノ ・ 記憶装置としてのモノ <p>歴史資料、文学作品、絵画などの読解力を養う。博物館の標本資料も有効活用する。 西アジアの事例を中心とするが、それ以外の地域を専門とする学生も歓迎する。</p>	
使用する参考書、参考論文等 <p>杉田英明『事物の声 絵画の詩—アラブ・ペルシア文学とイスラム美術』（平凡社、1993） 小林一枝『アラビアン・ナイト』の国の美術史—イスラーム美術入門（八坂書房、2004） その他、随時指示する。</p>	
成績評価基準 <p>出席と報告、質疑応答、レポートをもとに評価を行う。</p>	
その他の留意事項	